

藤田医科大学 循環器内科 医局便り

2024年新年号

同門会の先生方へ

新年あけましておめでとうございます。井澤英夫教授より新年のご挨拶、また1月13日土曜日に行われました同門会新年会の写真をお送りします。



雲間を登る龍のごとく 井澤英夫

新年あけましておめでとうございます。

元旦に能登半島地震が発生して名古屋でも震度4の揺れを感じました。1月2日には羽田空港で航空機事故が起こり、落ち着かない気持ちのまま新年がスタートしました。

北陸在住の同門の先生方からは、ご自宅やクリニックの壁にヒビが入ったり家具が倒れたりするなど大変な被害に遭われたとのことですが幸いにもご家族を含め怪我を負われた方はみえないとの連絡を頂き、お見舞い申し上げますと同時に少し安心もいたしております。医局や同門会としてお手伝いできることがあれば、どんなことでも申し付けいただければと願っております。

1月2日には大学病院からDMATが出動して、現地での初期医療活動に従事しました。循環器内科からも金沢医科大学からの要請に応えて、1月16日から5日間、助教の寺嶋先生が金沢医科大学へ派遣され被災者の診療にあたりました。また、能登半島の老人保健施設に入所中の3名の方がヘリコプターで大学病院へ搬送されましたが、その内のお一人は循環器内科へ入院され、状態が安定していることを確認した後、相生山病院へお願いして転院して頂きました。今回の能登半島地震は従来の災害と異なり医療支援活動の長期化が見込まれています。循環器内科でも今後、長期間にわたって支援活動をしていく必要があるものと考えております。

全国私立大学病院の中で大学病院は昨年度の稼働率が第2位でした。分院の中では岡崎医療センターが全国第1位で本院を含めても第1位、バンタネ病院が第4位で、各病院とも循環器内科が大いに貢献していることは言うに及びません。地域医療を支えている名古屋記念病院と碧南市民病院も副院長として循環器内科が病院の中核を担っています。同門の先輩方のたゆみない努力の上に、現在、日本を代表する循環器内科の医局になった私どもですが、仕事量も増えるばかりであることも事実です。患者さんへ丁寧な対応を心がけながら、効率的な働き方をする必要があります。医療DXやメディカルスタッフ、特にナース・プラクティショナー (NP) へのタスクシフトなど、業務改善のために山積みされた課題に一つずつスピードを上げながら取り組んでいく必要があります。また、サブスペシャリティ領域を横断して診療できる「総合的に優れた循環器内科専門医」としての能力と自覚を私たち医局員一人一人が持つ必要もあると思います。専門領域にとらわれずお互いにカバーしながら診療することが効率的な業務につながるものと考えます。今年は3名の優秀で志の高い研修医の先生が新たに入局してくれました。来年度以降も継続的に多くの新入局の先生を増やす活動も行っていかななくてはなりません。仕事量は多くても日本一の症例数を誇る藤田医科大学循環器内科の医局で研鑽を積んで実力をつけたいと願う研修医の先生を集めていきたいと考えています。臨床が忙しい中ですが、研究も各自が頑張り、昨年も一流雑誌に多くの論文を発表することができました。さらに、日本循環器学会のlate breakingで尾崎教授と村松先生がそれぞれ発表し、瀧川先生は循環器学会東海地方会で優秀演題賞に、船戸先生は心臓リハビリテーション学会で優秀賞、心不全学会でYIA finalist に選ばれるなど、研究面でも高い評価を受けています。

今年は辰年、私は年男ですので、雲間を登る龍のごとく力強い発展の年にできればと願っております。今年の藤田ハートカンファレンス・同門会総会は7月6日（土）夕方に名鉄グランドホテルで開催いたします。同門の先生方には、引き続き、同門会活動と医局員へのご支援とご指導を何卒宜しくお願い申し上げます。先生方のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



同門会新年会 (2024年1月13日 (土) 桃花林にて)